たばこ販売実績（37年）

県民が煙にした29億本

この実績は販売方策に基つき，中心価格群（特にピース，ハイライト，いこい）の強化，拡大に努めた販売促進の成果であると共に，一面県内の消費水準や，県民所得の上昇が裏打されているわけで，県内の鉱工業地帯の不況によつて極端な販売低下をもたらしたところもあつたが，総じてはまずまずの良好な成績に終始した。

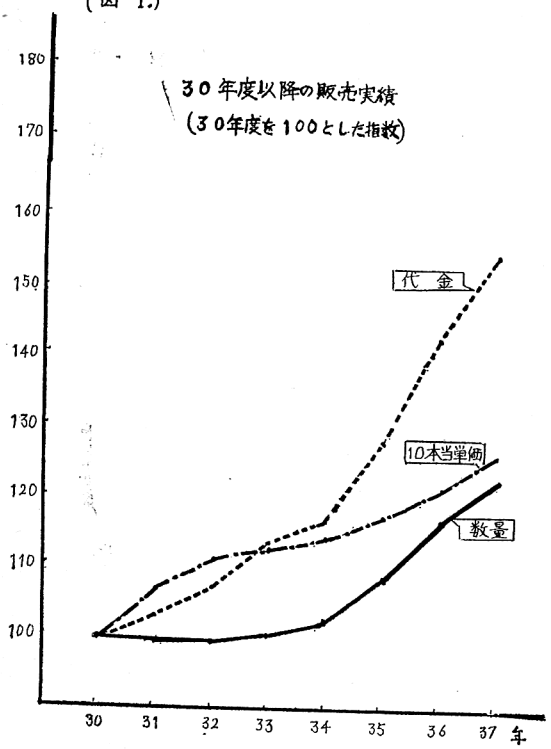
図表「1」は30年を100とした販売実績の推移である。単価と代金は順調な傾向を示しているが，数量は33年まで伸びが低迷している，しかし34年度以降は代金数量ともに上昇傾向が急テンポである。

図表「2」の上昇率グラフは代金，数量ともに本県の経済事情を反映しており，特に35年度以降所得培増ブームによつて本県の経済界も飛躍的な進展をとげているが，そうした情勢が販売の伸び率からうかがえる，またこの上昇の傾向から34年を分岐点として本県の産業構造や経済情勢の変化についても一応の推測ができる。

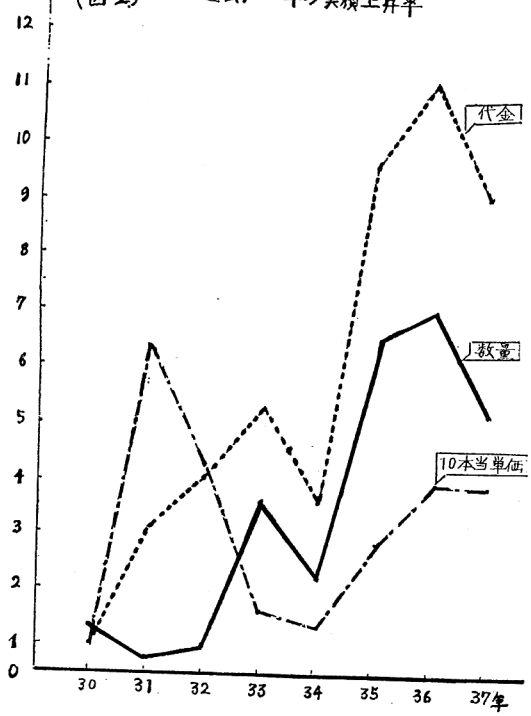
たばこ販売の年度別推移（単位千本）

	30	31	32	33	34	35	36	37
販売数量	2,379,532	2,307,711	2,302,399	2,384,472	2,436,630	2,593,026	2,772,800	2,913,971
指数	100.0	97.0	96.8	100.2	102.4	109.0	116.5	122.5

（図 1.）



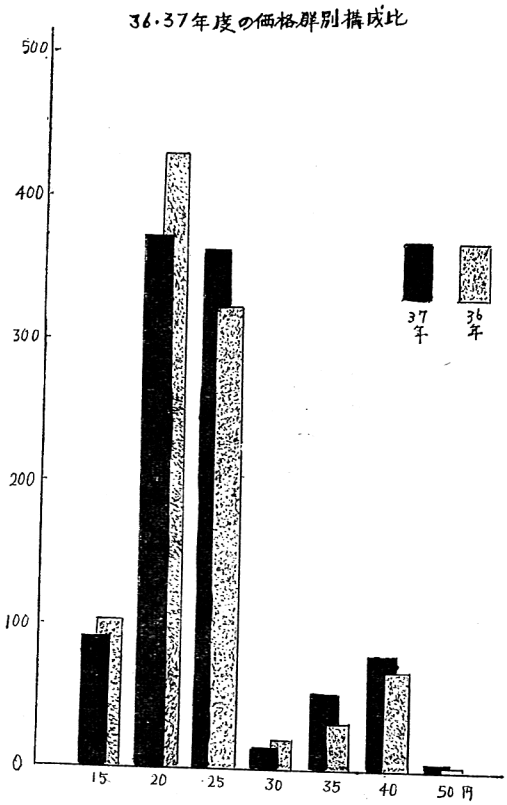
（図 2）　過去7ヶ年の実績上昇率



銘　柄　の　傾　向

前年に較べ伸長の著しかつたのは，ホープ，ハイライトで，対前年比は234.4%，198.1%とそれぞれ２位又はそれ以上の上昇を示し，次いで富士127.8%，いこい118.5%，ピース116.8%と順調に伸び，中心価格群であるピース，ハイライト，いこい群が期待どおりの実績を収めた。

（図 3）



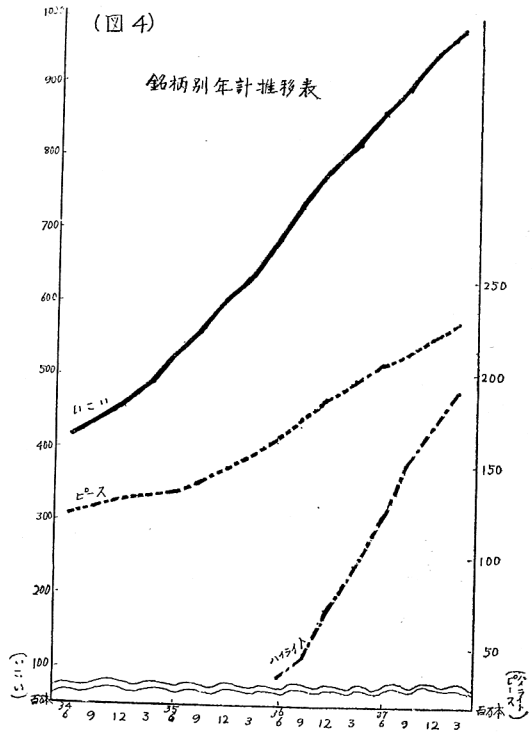
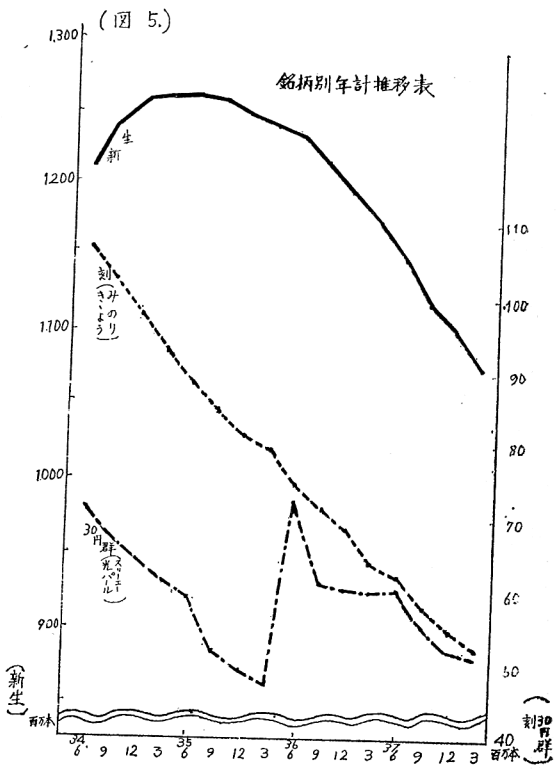
一方新生の凋落が目立ち，３０円群のうちパール，スリーエース，バツト等も下降線をたどつている。

各銘柄を価格群別にした構成比を並べてみると「図表３」のようになる。

銘柄の傾向を年度別推移で図表化してみると，「図表４，５」となり一層明瞭になる。

（資料　日本専売公社水戸地方局販売部）

（図 4）



（図 5.）